

ネコのシルダのそらのとびかた



ネコのシルダは町いちばんのネコです。

大きさも、毛なみも、えものとりもいちばん！



シルダは今日もじまんのツメをひとつふり。
おなかいっぱいのシルダはへいの上でゆうがに毛づくろいをしていました。
おひさまはぼかぼか。
うとうとしていると、ピィピィなきごえがきこえてきます。
うす目をあけると、巣からおっこちたひなが小さな羽と足をパタパタさせています。
でもぜんぜんとべません。

へたくそだにゃあ

シルダはおもわずつぶやきました。





するとひなはシルダにちかづいてきていいました。

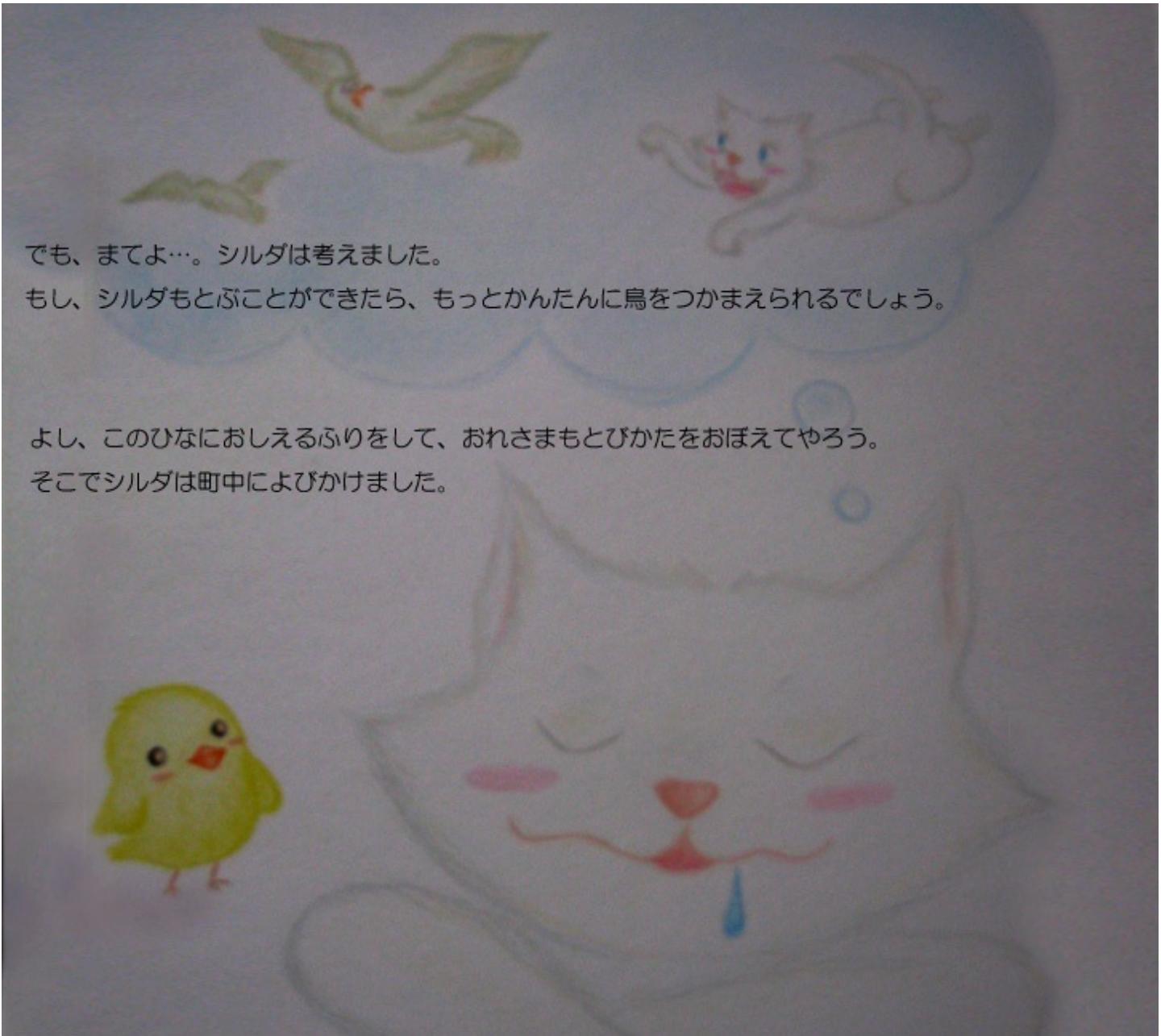
「ぼくにとびかた、おしえてくれる？」

シルダはびっくりしました。

「ネコはとばにゃいんだぞ」

シルダがおしえられるわけありません。

とぼうなんて思ったこともないのですから。



でも、またよ…。シルダは考えました。

もし、シルダもとぶことができたら、もっとかんたんに鳥をつかまえられるでしょう。

よし、このひなにおしえるふりをして、おれさまもとびかたをおぼえてやろう。

そこでシルダは町中によびかけました。

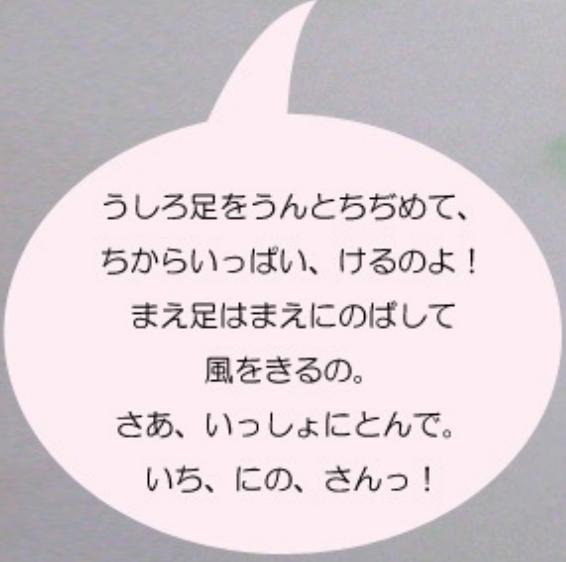
とびかたを知ってるヤツ。
あつまれえ！

しばらくして、シルダたちのもとに
とびかたをおしえてくれる
先生があつまりました。



まずシルダとひなの前にやってきたのは、うさぎのぴょん子でした。

「いい?あたしのまねをして」ぴょん子はとくいげにいいました。



うしろ足をうんとちぢめて、
ちからいっぱい、けるのよ!
まえ足はまえにのばして
風をきるの。
さあ、いっしょにとんで。
いち、にの、さんっ!

ぴ

よ



びよん子とひなはぐんぐん前にとんで着地しました。



シルダはといえば、いきおいあまって木にしうとつ！

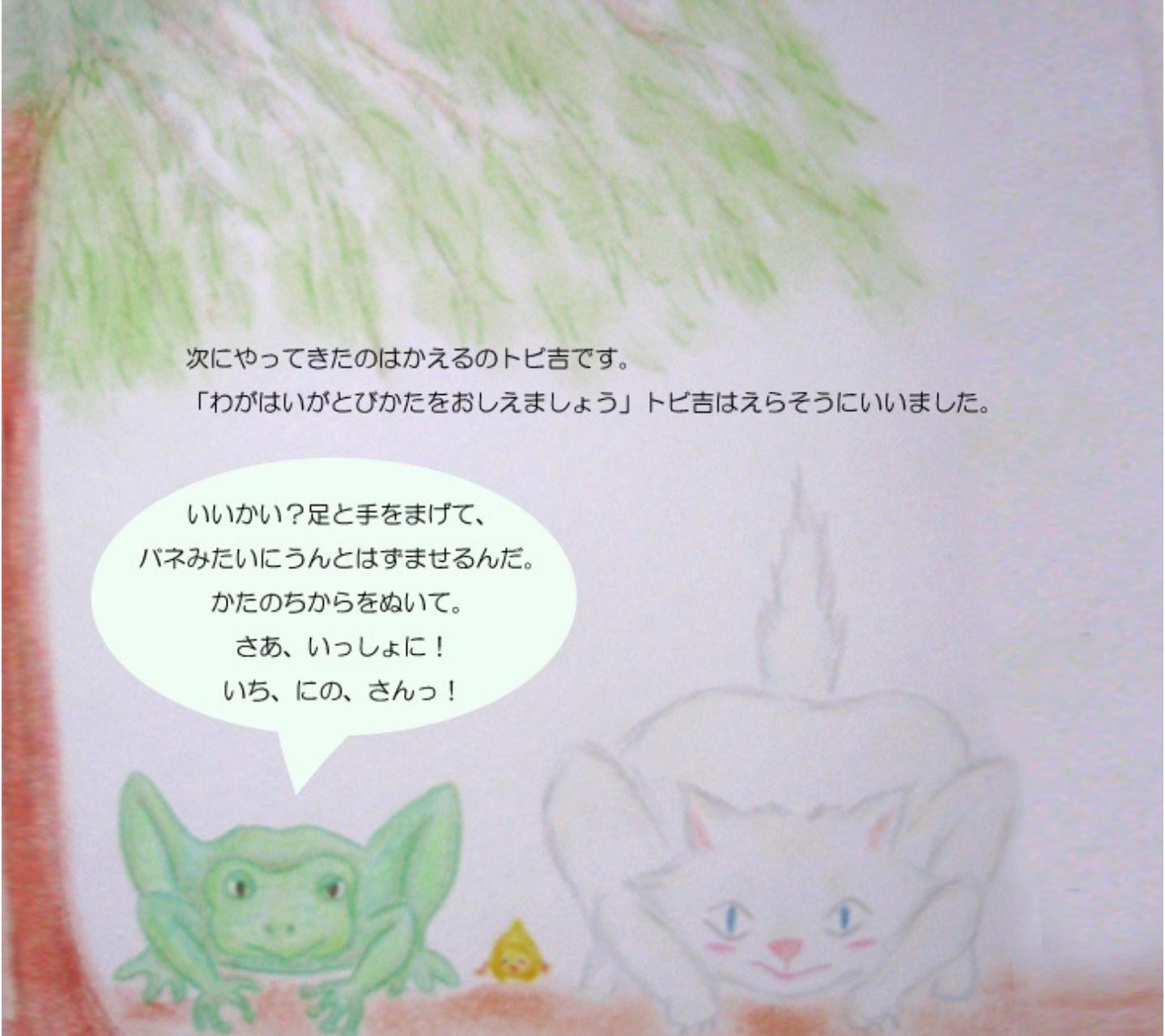
ん





前にとびたいんじゃにゃいんだ！

「あら、そうだったの」
びょん子はざんねんそうに
かえっていきました。



次にやってきたのはかえるのトビ吉です。

「わがはいがとびかたをおしえましょう」トビ吉はえらそうにいいました。

いいかい？足と手をまげて、
バネみたいにうんとはずませるんだ。
かたのちからをぬいて。
さあ、いっしょに！
いち、にの、さんっ！

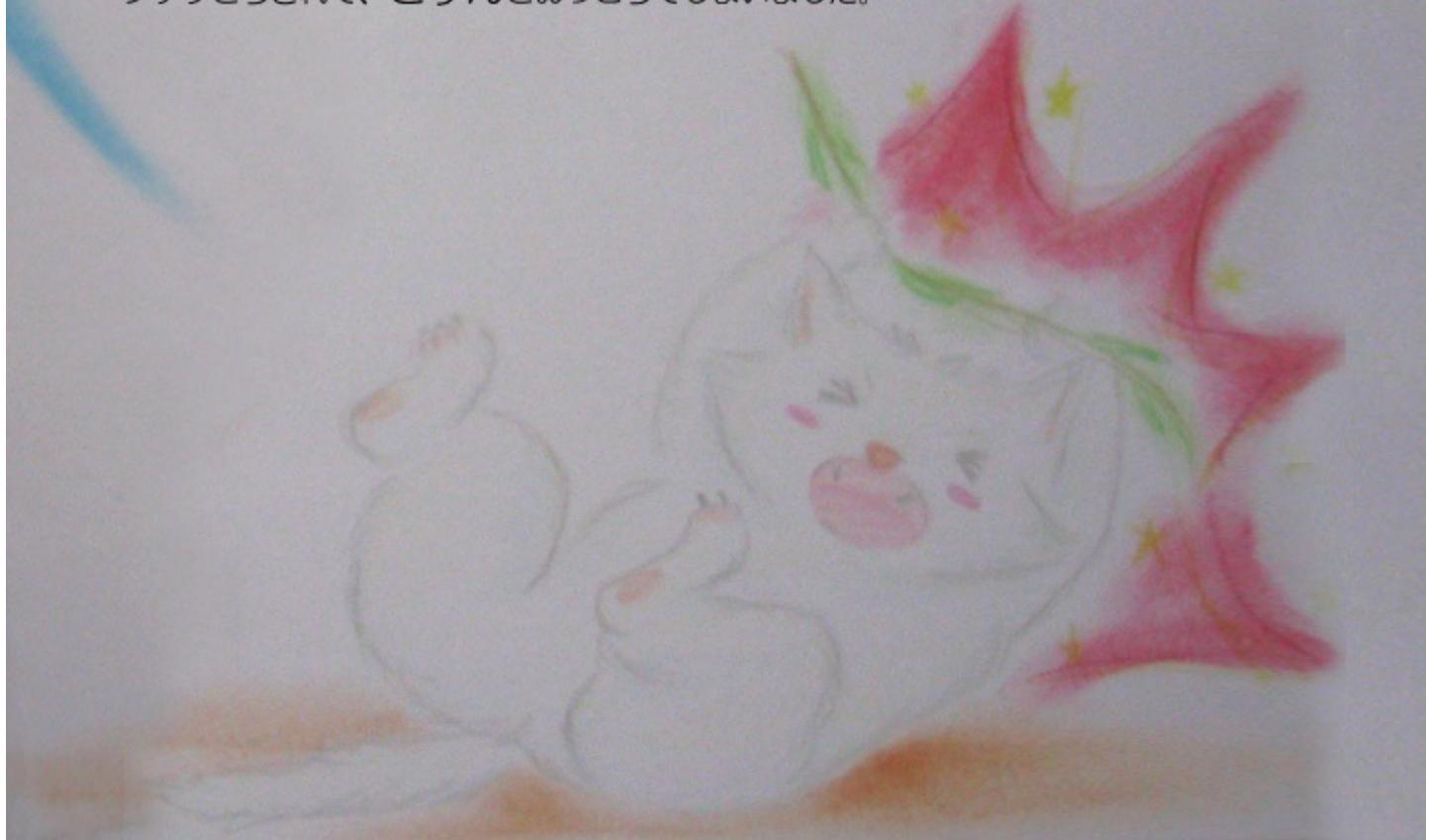


よし、いいぞ！
あの枝につかまれ！

び ょ ～ ん

トビ吉とひなは、柳の枝につかまって、ゆらゆらゆれています。

でも、シルダはおもすぎて、つかまつた枝が
ブチッとちぎれて、どすんとおっこちてしまいました。



シルダは、ズキズキするおしりをおさえていいました。

おれたちは、
そらをとびたいんだ！

「なんだ。それではわがはいにはむりだよ」
トビ吉は、もうしわけなさそうにかえっていきました。
「そらをとぶのってむつかしいね」ひながシルダにいいます。
まったくそのとおりです。シルダはひどいめにあったと思いました。

このひなのせいだ！こんなチビ、たべてやろう
シルダはじまんのツメをだし、ひなをギロッとらみました。
そらをとぶれんしゅうをしたせいで、おなかもすきました。
まるっとしたひながおいしそうです。



シルダ、どうしたの？

ひながふるえるこえでいいました。
シルダはこたえるかわりに
ひなにとびかかりました！





うわあああ！たすけて～

ひなは、シルダのツメのすきまから、なんとかにげだしました。
羽をパタパタ、足をバタバタさせて、にげる、にげる。

でも、シルダは町いちばんのハンターです。
とうとうひなを池においつめて、えいっととびかかりました。
それ！





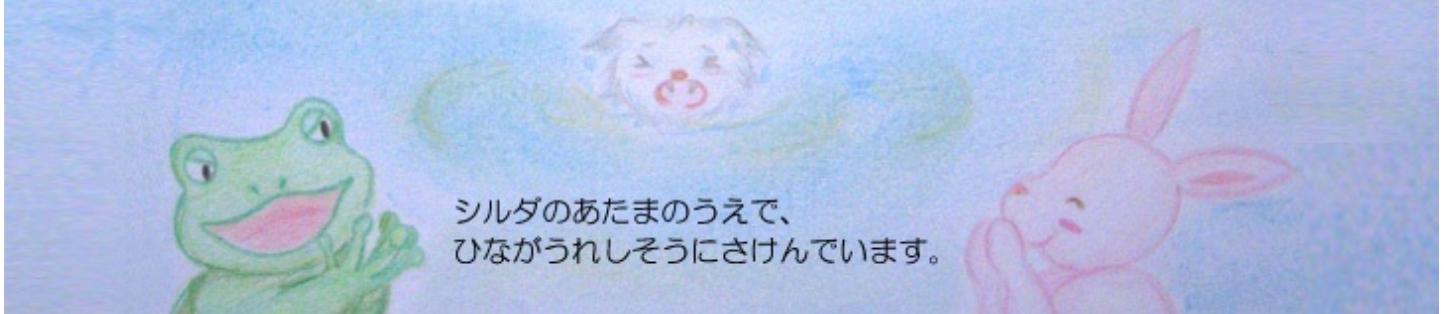
バッシャーン！

シルダは、いきおいあまって池にとびこんでしました。



シルダ、みてみて！
とべたよ！

シルダ、ありがとう！
ぼくがとべるよう、わざとおどかしてくれたんだね！
ぼく、ほんとにたべられるとおもって、びっくりしちゃったよ。
でも、おかげでとべるようになったよ！



シルダのあたまのうえで、
ひながうれしそうにさけんでいます。

シルダ、だいすき！

ひなはシルダにぎゅっとだきつきました。
シルダはベチョベチョでつめたかったので、
ひながとてもあたたかくかんじました。

ですからシルダは、
ひなをたべることなんて、
すっかりわすれてしまいました。

まあ、いいか

シルダもすっかりこのひなかすきになっていたのです。

ひなはとべるようになっても、シルダにあいにきては
そらでのいろんなはなしをするようになりました。
シルダは、ひなのはなしをききながら、へいの上でうとうとするのがだいすきになりました。
ひなの羽がばたばたいうのをききながらねむると、
シルダはいつも、ゆめのなかで、ひなといっしょにそらをとべるからです。





でも、たまーにねぼけて
へいからおっこちそうになるのは
ないしょです。





おしまい